



▲8月30日 市総合防災訓練（西小学校）



▲9月6日 市民合唱祭（市民文化会館）



▲9月1日 敬老大会（老人福祉センター）



▲9月5日 ほいくえんまつり（楽寿園）



▲9月2日 起震車体験（北上小学校）



▲9月5日 環境探偵団壁新聞作り（市役所第二会議室）



▲8月23日 街中だがりや楽校（三嶋大社境内）



▲9月10日 夏の富士（老人福祉センター付近）



▲8月25日 世界スカウトジャンボリー市長表敬訪問（市役所市長応接室）



▲8月18日 青年海外協力隊の帰国後活動報告（市役所市長応接室）

三島の絵はがき1 —記念絵はがき—

今回は、十月十日(土)から郷土資料館で開催する企画展「絵はがきでみる三島」の展示資料の中から、記念絵はがきについて紹介します。

旅先などで、美しい絵や風景が描かれた絵はがきを見るとつい手にとってしまうという人も多いのではないのでしょうか。現在も人気のある絵はがきが日本で発行されたのは、私製はがきの作成が可能になった明治三十三年(一九〇〇)以降のことです。

これ以降、専門雑誌の創刊や交換会の開催など、日本で絵はがきが大流行しました。そのきっかけとなったのが、明治三十七年(一九〇四)から二年間に渡って発行された日露戦争の戦勝記念絵はがきであると言われています。

絵はがき人気の火付け役ともなった記念絵はがきは、三島に関するものも多数残されています。



▲写真①：赤十字社田方郡委員会・愛国婦人会幹事会総会の開催記念絵はがき

写真①は、明治四十年(一九〇七)一月、三島高等女学校(現在の三島北高等学校)で赤十字社田方郡委員会・愛国婦人会幹事会総会が開かれた際のものです。季節に合わせて周囲には梅の図柄が配置されています。



▲写真②：第一回静岡県産牛共進会の開催記念絵はがき

写真②は、明治四十二年(一九〇九)九月に行われた第一回静岡県産牛共進会を記念したものです。優れた牛を選ぶ品評会で、当時、

三嶋大社の東側にあつた戦捷記念館を会場に行われました。写真の周囲を浮き出し加工の縁取りや菊の花で飾った美しい一枚です。



▲写真③：野戦重砲兵第一旅団の完成祝賀記念の絵はがき

写真③は、大正九年(一九二〇)の野戦重砲兵第一旅団(現在の三島北高等学校周辺一帯)完成記念の絵はがきです。隊列と風景をカラフルに周囲に配置し、真ん中に旅団の駐屯場所の全景写真がはめ込まれています。

記念絵はがきはデザイン性の高さや美しさを目で楽しむだけでなく、この地域でどのような行事が行われていたのかを知る歴史資料としても貴重なものです。

企画展は、十二月十三日(日)まで楽寿園内郷土資料館で開催いたします。楽寿園では、十月三十日(金)〜十一月三十日(月)に菊まつりを開催します。あわせてご覧ください。



三島の村名①

伊豆佐野村

(佐野・萩地区)

—ドンドンド焼きと事八日—

小正月ごろに行われるドンドンド焼きは村を守る石の神様、道祖神(サイノカミサン)に関連があります。広報みしま七月一日号で、「かつては道祖神を火の中に入れて清めていた」と説明しました。一方でドンドンド焼きは、「事八日」に関連したものであるという説もあります。今回は、その事八日について紹介します。

事八日とは、「毎年十二月八日の一つ目小僧が村の子どもたちの悪事を調べ、こらしめるため病気にする子どもたちの名を帳面に記して道祖神に預ける。一つ目小僧は翌年二月八日に取りに来る予定なので、その前に道祖神を火に入れて帳面を燃やしてしまう」という伝承です。かつて、県東部ではかなり広まっていたようですが、現在市内では、ほとんど伝わっていないようです。

※伊豆佐野村は、広報みしま六月一日号・七月一日号で取り上げました。そのため、タイトルの「三島の村名」は①としています。



▲ドンドンド焼きの様子